

心の原風景 —我が母校—

佐渡市立 赤泊中学校

赤泊中学校は今年で67年目を迎えます。学校は校歌の一節にある「人こそよけれ赤泊」をモットーに、強きからだ、清き心、高き理想を育む努力を続けています。現在、全校62名の生徒は、地域の人の温かな支援に支えられて、明るく伸び伸びと学校生活を送っています。

本校の特色ある学校行事を紹介いたします。まず、全校生徒の絆を深める活動に「爪の沢キャンプ」があります。赤泊三川地区の標高500mの山麓にあるキャンプ場で毎年一泊二日を実施しています。生徒の主體的な活動を通して、自主性や実践力の育成を進めています。生徒は地域連携活動として、地域の先達から「竹細工」や「ワラ細工」「郷土料理」等の指導を受け、交流を深めています。初めてテント泊を経験する生徒もおり眠れない事もあるようですが、みんなと飯ごうで作る



キャンプファイヤー

食事やキャンプファイヤーの思い出が強く生徒の記憶に残る活動になっています。

次に、伝統ある学校行事

として赤泊港まつりの「海上大相撲」への参加があります。毎年、8月上旬に行われる海上大相撲には、全校男子生徒が東西に別れて出場しています。名前とともに屋号で紹介される選手には地域の人からの温かい声援がかかります。行司として学校職員が参加するのですが、白熱する生徒とともに海に落ちることもあり、なかなか大変です。



海上大相撲

最後に、「いじめ根絶集会」を紹介いたします。昨今、いじめ問題が社会的に話題になっていますが、本校ではその予防策として、毎年文化祭で「いじめ根絶集会」を開催しています。代表生徒による「いじめ劇」と地域の人も参加する「パネルディスカッション」の二部構成ですが、熱心な討議が行われています。初めにも述べたように「人こそよけれ赤泊」を謳う学校として「いじめ」は許されたいのです。幸い生徒の清き心は現在も維持されています。

◆教育委員会学校教育課
(両津支所内) ☎23-4898



公開審査を終え、次は現地審査！

今年、佐渡のジオパークが日本ジオパーク認定に向けて申請する年です。事務局では、日本ジオパーク委員会へ加盟申請書を提出し、審査員の前で佐渡のジオパークの取り組みを紹介するプレゼンテーションを行ってきました。

今回、世界ジオパーク（現在5地域）に応募したのは、霧島、白山手取川、様似町アポイ岳の3地域、日本ジオパーク（現在20地域）には、佐渡を含めて10地域が応募しました。

佐渡ジオパーク推進協議会が4月に提出した加盟申請書では、島の概要から始まり、ジオサイトの中身や運営計画などについて30ページにまとめました。先月20日に千葉市の幕張メッセで申請地域の公開審査（公開プレゼンテーション）が行われ、

佐渡ジオパーク推進協議会からは、会長である甲斐市長と事務局5名が出席し、佐渡のジオパークの魅力と今後の展望を説明しました。審査員からは、他の推進地の活動から学んだことや世界文化遺産やGIAHS（世界農業遺産）との共存などについて質問がありました。発表者は同県で国内ジオパークの牽引的立場で

ジオパーク、推進日記

26

ある糸魚川

ジオパークの取り組みを参考にしながら、世界文化遺産、GIAHS など島の豊富な資産についてジオパークを基礎に発展させていきたいと応えました。

各申請地域の発表でも訴えられていたのが、地元住民を巻き込みながら創りあげていくことの重要性です。佐渡でも引き続き、市民の皆さまと地域でのジオパーク創りと活用についての話し合いを重ねていきますので、よろしくお願ひします。

夏には、3名の審査員が佐渡島を訪れて現地を見て回ります。推進協議会では、小木半島や相川地区などを紹介する予定です。この現地審査の結果を踏まえて認定地域が決定されます。

◆教育委員会社会教育課ジオパーク推進室（両津郷土博物館内）
☎23-2101



公開審査の様子